

調査の概要

目的 網走市へ訪れる観光客に対するアンケート調査を通じて、観光消費と地域経済への影響を分析し、網走市観光振興計画にフィードバックすることで効果的な観光施策を推進する。

調査内容 観光客の動向やニーズ、消費行動、消費額を把握する為、春夏秋冬の4期に分け、2つの観光施設、市内主要ホテル8カ所で実施。

(※ 総サンプル数 日本人1,115人、外国人212人)

- (1) 道の駅「流水街道網走」
- (2) オホーツク流水館
- (3) 網走市内ホテル (8カ所)

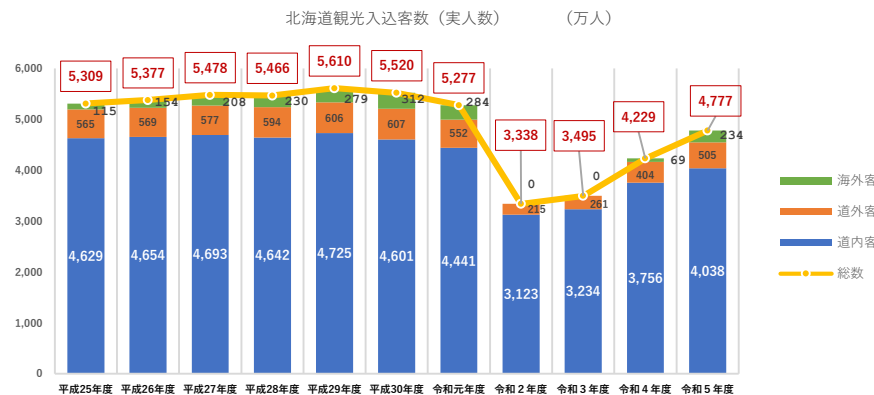
観光概況

<北海道全体の観光の現状>

北海道の観光業界はコロナ禍の影響で大きな打撃を受けたが、令和4年度に水際対策が緩和、全国旅行支援等が始まり、需要は急速に回復。令和5年度には観光客数が4,777万人まで達し、令和元年度比で90%まで回復。観光消費額も回復し、北海道全体で1兆2,409億円（令和5年度）に達したが、令和元年度比では、まだ8割強に留まる。

<オホーツク圏の観光入込客の推移とその影響>

令和5年度におけるオホーツク管内全体の観光入込客数は870.8万人（うち道内客が575万人、道外客が295万人）で、令和元年度比 99.5%とコロナ前とほぼ同水準まで回復している。宿泊客延数は、国内外全体で162.5万人で令和元年度比92.1%、うち外国人は10.3万人で、令和元年度比86.5%まで回復している。



<網走市の観光入込客の推移とその影響>

令和元年度（コロナ禍前）における網走市の観光入込客数は約138万人であったが、感染拡大の影響により令和2年度、令和3年度には約85万人まで減少した。その後、回復基調となり、令和5年度には122.3万人まで回復している。訪日外国人の入込客数も回復しており、外国人の宿泊客延数は3.8万人まで回復している。

令和5年度における全体の宿泊客延数は36.8万人で、令和元年度と比較すると、国内宿泊者は99.0%、外国人宿泊者では85.7%の水準まで回復しており、順調な回復傾向がみられる。一方で、前年度（令和4年度）の宿泊者数37.6万人と比較すると、97.8%となっており、わずかながら減少がみられた。外国人宿泊者数については、依然としてコロナ禍前の水準には達していないものの、令和4年度の1.1万人から令和5年度には3.8万人へと大幅に増加している。

令和5年度網走市

網走市観光入込客（実数）

122.3万人

日本人宿泊客延数

32.9万人

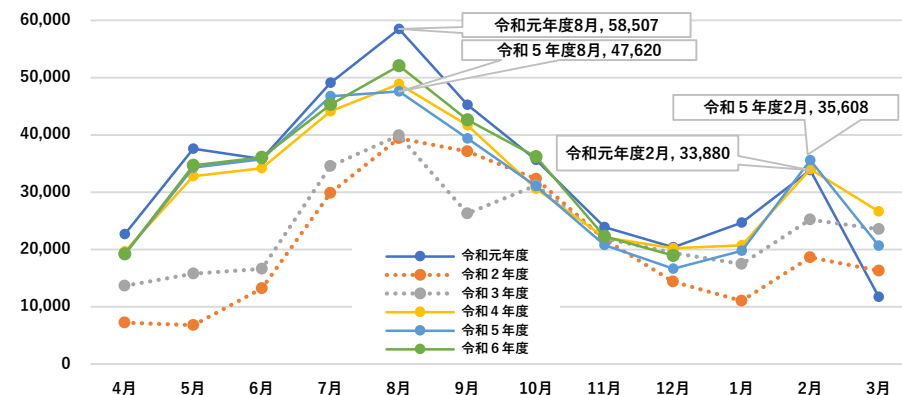
外国人宿泊客延数

3.8万人

<網走市の月別宿泊客延べ人数について>

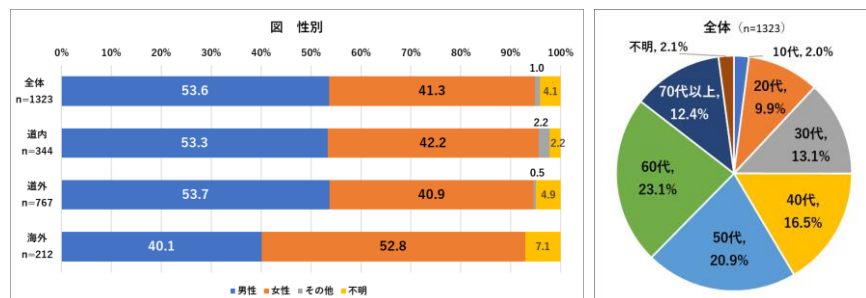
網走市の月別観光客数の推移は観光シーズンの8月、流水時期の2月がピーク。観光客が大きく落ち込む11月～1月、3月～4月の期間における新たな観光客の誘致が必要。

網走市宿泊客月別延数

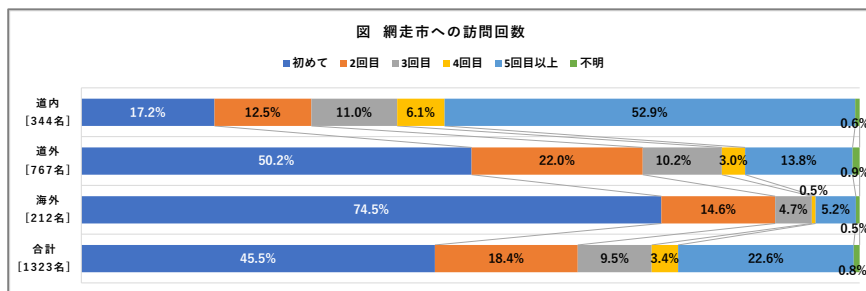


網走市内アンケート調査結果の概要（抜粋）

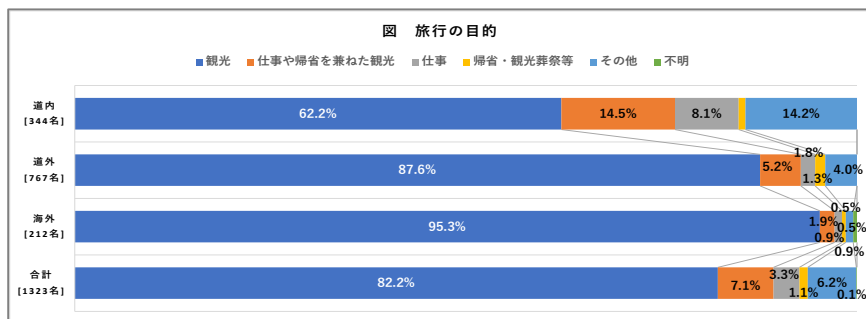
* 春、夏、秋、冬の4期で調査を実施。属性を見ると、性別では男性がやや多く、外国人では女性が多い。年齢構成は幅広いが、高齢者が多く、とくに50代～70代で全体の56.4%を占める。



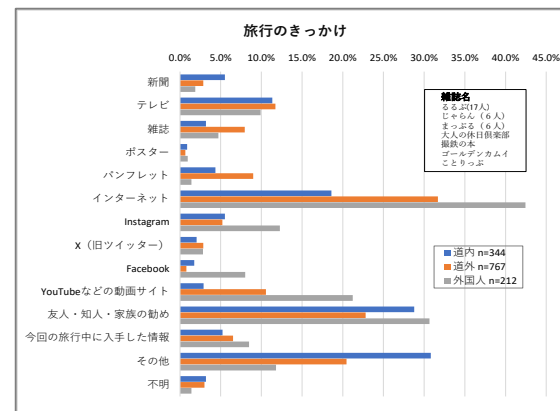
* 網走への訪問回数は、全体の45.5%が初めてと答えており、前回調査と比較すると、全体で20%減少している。ハードリピーター（5回以上）が全体の2割となり、今後の継続的なターゲットとすべき層である。



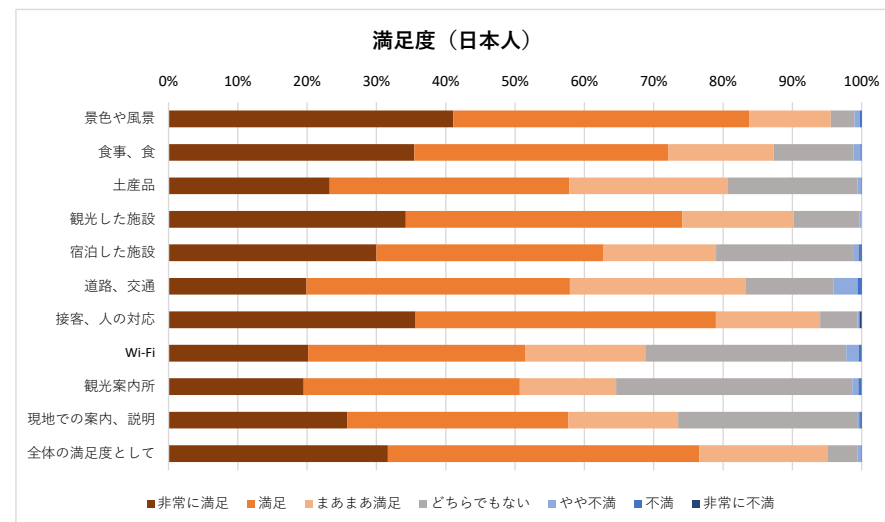
* 旅行目的は、観光が最も多く、道内客で6割強、道外客、及び外国人観光客では約9割の人が観光目的である。



旅行のきっかけは、「インターネット」や「友人・知人・家族のすすめ」が多く、前回調査と比較して、特に「インターネット」やYouTube、InstagramなどのSNSの影響が増していることが分かる。



満足度では、日本人の評価は外国人より低い傾向で、特に道路・交通、Wi-Fiのサービスに不満が多い。年代別では中高年齢者の満足度が低い傾向にある。一方、外国人は景色や食、接客サービスに高い満足度を示している。



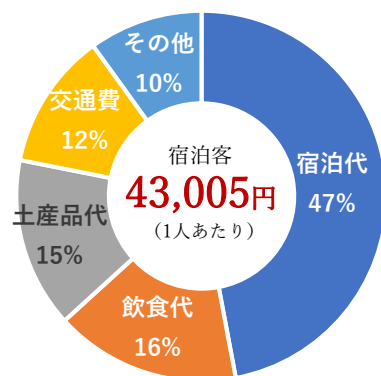
網走市内アンケート調査結果の概要（抜粋）

<網走市内訪問客の日本人・外国人、道内・道外別観光消費金額>

調査では、外国人と日本人の消費傾向、宿泊客と日帰り客の消費額の違いを考慮して調査表を設計。観光客の消費総額の推計は、各シーズン（春、夏、秋、冬）の観光入込客数に、調査で得た各期の平均単価を乗じて算定。

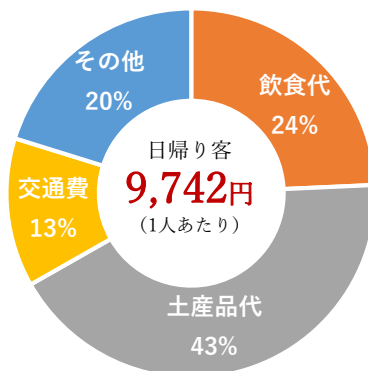
（宿泊、日帰り別調査は、日本人、外国人合算の数値）

【宿泊客】観光消費額



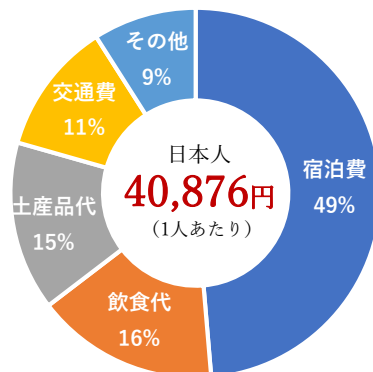
（平成28年度調査 21,923円）

【日帰り客】観光消費額



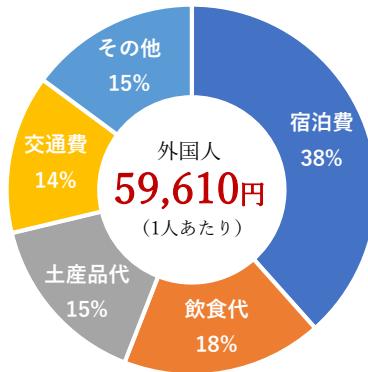
（平成28年度調査 6,470円）

【日本人宿泊客】観光消費額



（平成28年度調査 21,923円）

【外国人宿泊客】観光消費額



（平成28年度調査 21,919円）

網走市経済波及効果の算定と考察

<経済波及効果の目的と測定方法>

網走市を訪れる観光客が生み出す経済波及効果を明らかにし、地域経済の活性化の方向性を示す事を目的とし、観光消費額の推計と経済波及効果額の算定の2段階で分析する。

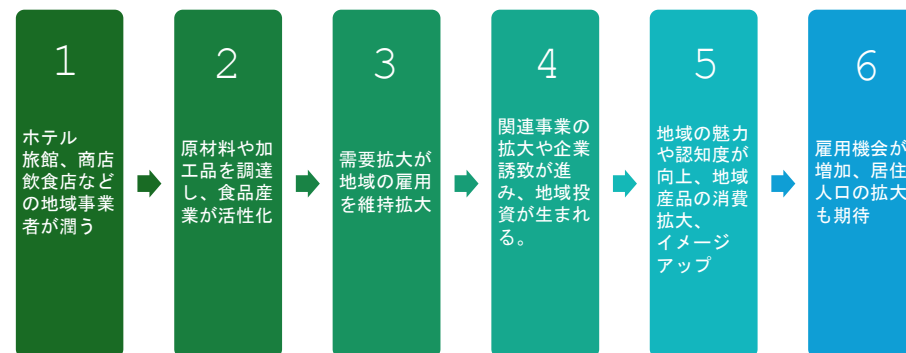
<観光客の分析>

今回の調査結果から特徴をピックアップすると

- * 道外旅行者で、網走に5回以上訪れている顧客層がみられる。平均宿泊日数は4泊以上だが、宿泊地として網走が選ばれていない。
- * 自然景観や食事が人気。旅行動機はインターネット、知人・友人の紹介が多い。
- * 旅行手配もインターネットの利用が多く、道外客、海外客とも6割以上が、ネットからの自己手配となっている。
- * 地域への期待は自然、景観、文化、食で、日本人旅行者は男性がやや多く、外国人旅行者（アジア圏）は、若い女性が多い。

<地域活性の流れ>

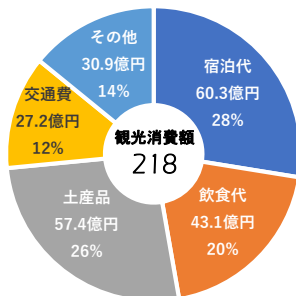
観光産業は特定の産業区分に属さず、多様な産業と密接に関連するため、地域経済への波及効果が大きい。経済効果としては、宿泊・飲食業などの収益向上、関連産業の活性化、雇用の増進、新たな投資の誘発、地域ブランドの向上、さらには人口増加の可能性などが挙げられる。



網走市経済波及効果の算定

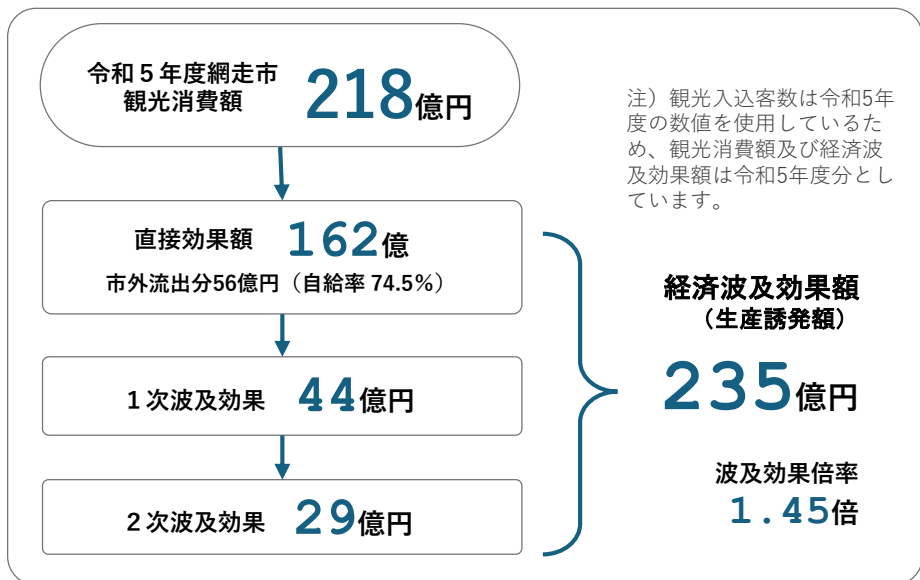
< 網走市波及効果数値 >

観光客数と消費単価を掛け合わせた観光消費額は、宿泊客127億円、日帰客90億円、合わせて218億円となった。日本人と外国人の内訳は、日本人198億円、外国人20億円である。合わせての直接効果は、網走市での観光消費額218億円に自給分（74.5%）を乗じ、市内生産誘発分の直接効果額162億円を算定した。



[R5年度 網走市観光消費額内訳]

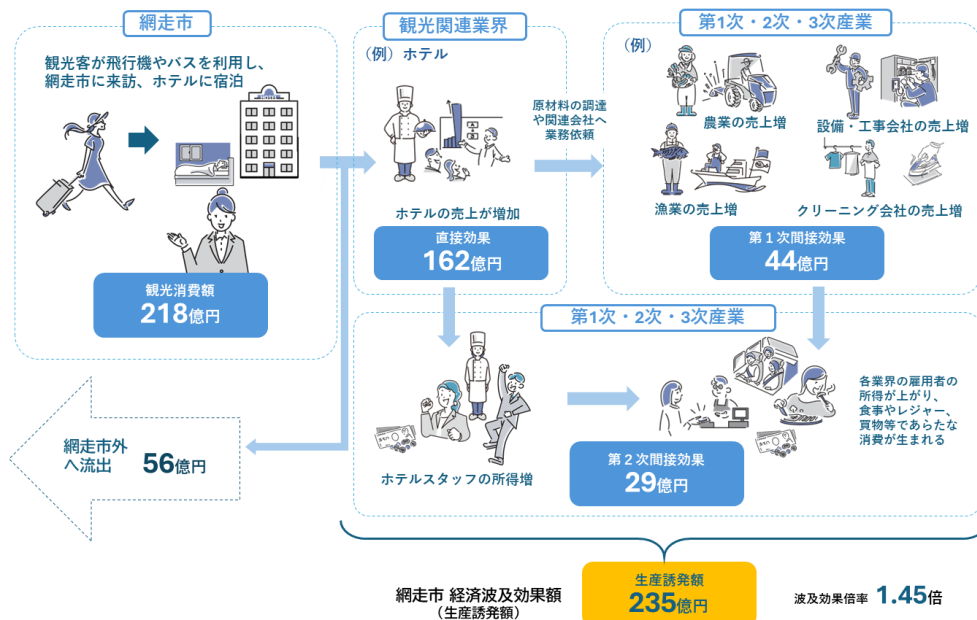
< 経済波及効果数値フロー >



< 道内他都市の数値比較 >

	調査年度	観光消費額	直接効果額	経済波及効果額	波及効果倍率
網走市	令和6年度	218億	162億	235億	1.45倍
釧路市	令和5年度	440億	330億	470億	1.42倍
富良野市	令和5年度	375億	340億	440億	1.29倍
小樽市	令和2年度	898億	642億	893億	1.39倍

< 網走市観光消費のながれ（イメージ） >



観光消費、経済波及効果の重要性

観光消費額の波及効果は、直接的には観光業界、宿泊業、飲食業、旅行サービス業、運輸業から始まり、間接的には農業、漁業、製造業、建設業、電気・ガス業、金融業、不動産業、複合サービス業、娯楽業など多岐にわたる。網走市の経済波及効果を高めるためには、より多くの観光客を誘致することのほか、各産業が可能な限り網走市域内で原料の調達や雇用を促進することである。市外へ流出（56億円/令和5年度）を極力抑える事が重要。

観光客が網走に訪問することにより、新たな財が生まれ、地域が活性化することや地域住民全体が意識することで、観光客の受け入れ体制（おもてなしの意識）が向上し、さらに多くの観光客の誘致へと繋がり、外貨獲得も期待できる。